

音楽劇 わが町 (俳優座劇場プロデュース)

言わせて! 今日の芝居

五十字劇評 No.11

【五十代】

装置のない舞台。ありふれた町の幼なじみの結婚。そして不変の『死』。語りの役割は？宗教でなく哲学が出現。

(女性)

わが町は七十年以上前のアメリカの田舎町の話。平凡な家庭、善良な人々、でも人生は波瀾万丈。自分の人生に重ねた人も。(女性)

平凡な日々の暮しがどれほど大切に愛おしいかを思い知らされました。これからの人生を大切に過ごします。

(男性)

【六十代】

簡素な装置で、特別な事は何も起こらない舞台。演者としてはそらられるが、非常に難しい芝居なんだろう。もう一度観たい、確かめたい。

(男性)

最小限の舞台装置で、観る者の想像力を試されたのかな？ピアノの調べにのせた土居さんの美しい歌声に魅了された。

(男性)

どこにでもあるような町、家族九年後の突然の出来事。限りある命を私は一生懸命生きているだろうか？！日常をもっと大切にしよう！音楽は最高、パントマイムは良かった。

(女性)



私達の何気ない日常生活の中にこそ宝物が詰まっていることが、土居裕子さんの美しい歌声に乗って、せつなく深く心に染み入ってきて、一生忘れられない舞台となった。

(男性)

エミリーの澄んだ歌声に大拍手、ピアノも出演者の一人！との制作箱田氏の言葉がピツタリの心にしみた三幕。

(女性)

遠い町の話と想いつつ観ていた。しかし次第に、言葉を持って過去から学び得る人間のなすべき事へと考えさせられた。

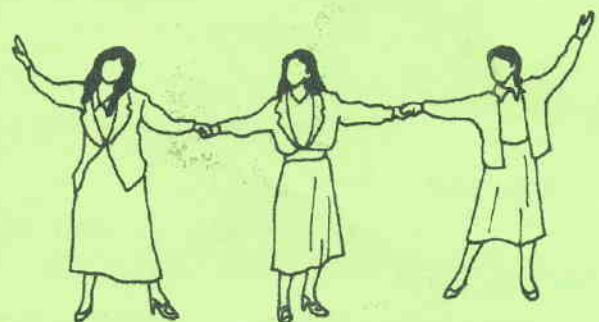
(女性)

音楽劇は初めて。魅力いっぱい歌声につつまれ、「人はどう生きるのか」、そして誰も逃れる事の出来ない「死」について問いかけてくる。深く考えさせられた。悔いのない生き方をしたと思う。でもその答えは生きている間には出ない。だから一日一日を自分なりに精一杯生きることかなと思う。

(男性)

歌もピアノも大変良かった。普段気が付かないが、いつもの日常の中に、大事なものがひそんでいた。

(女性)



何気ない毎日の繰り返しだが、「かけがえない瞬間の積み重ね」であることを、改めて考えさせてくれた。土居裕子さんの美しい歌声に涙した。今年一番の内容！

(男性)

一幕目の葬儀のシーンからはじまり二幕目へ。そして期待の三幕目、また葬儀のシーンでやつと話がつながりました。シンプルな舞台上で、どこにでもあるような日常と人の人生を歌で演じきったのはさすがプロですね。

(女性)



編集スタッフから

この五十字劇評は、二〇一三年十月例会「殿様と私」から開始、今回で第十一号となります。

編集スタッフの当初の想いは、芝居を語ることは、「芝居を観る大きな楽しみ」のひとつであり、会員同士が芝居の感動を共有し、多様な評価を確認、そして個々人の感想を深めることができるような批評交流の場としたい、ということでした。

そのためには、さらに多くの会員から劇評の投稿をしていただくことが必要です。「芝居を観たらまず投稿!」ぜひよろしくお願ひします。

わっ暗い、説明も長く、でも一幕、二幕と観ていました。期待の三幕目はと思ったらまた暗く確かに一幕目につながっていました。えっここでエミリーを殺すの。人生のはかなさ、いつ何が起こるかわからない悲しさを改めて感じました。

(女性)

声量があるが、細く、すぎ通った主演女優の声に魅了されました。いい時間でした。息をひきとる時、彼女の歌声を聞きたいです。

(男性)

50字劇評「言わせて!今日の芝居」に投稿を!

ここは、会員が「芝居を自由に語る場」です。率直な感想をお寄せください。

署名 “不登”です。ただし、編集の都合上、「男女」・「～歳代」だけは記入を!

字数 “50字”です。多くの会員の声を掲載したいからです。ご理解を!

締切 9月30日(水)

送付方法

メール：asa.gekijo.gekiyou@gmail.com
(劇評専用アドレス)

FAX：0166-23-1645
(市民劇場 FAX: 劇評担当宛)

郵送・持参：〒070-0033
旭川市3条通8丁目 緑橋ビル1号館 2F
旭川市民劇場 劇評担当宛



劇評QRコード

(郵送・FAX・持参の場合、原稿用紙・便せんなど、どんな用紙でも結構です。)